



西田小だより

令和6年3月19日

その13 文責:校長 岩井

令和5年度 卒業式 ご卒業おめでとうございます

3月16日(土)、令和5年度の卒業式を行いました。7名の子どもたちが立派に本校を巣立ちました。振り返ってみれば、この1年、始業式、入学式に始まり、全校児童が関わるたくさんの行事がありました。そのすべてにおいて7名の6年生はその中心に立って実施に関わってきました。「学校運営」という言葉があります。これは校長を中心に教職員が力を合わせて学校づくりをしていくという教員側の言葉です。しかし私はこの1年間「学校運営」を行ったのは、校長を中心というより、この6年生の子どもたちが中心にいてがんばってくれたからこそと振り返っています。

7名という少ない人数ですが、その分、この子たちは誰一人として手があくことなく、全員が必ずリーダーとしての役割分担、仕事をしないとはいけません。常に責任を持つべき立場なので、緊張感もあり大変なことも多かったことと思いますが、その分一人一人がたくさんの経験を積むことができました。そして真面目に取り組みました。この経験は、今後この子たちが大舞台でリーダーシップを発揮するための糧となり、大きな力となったと思います。

卒業式では、在校生も卒業生にむけて本気の声でしっかりと呼びかけを行ないました。卒業生のために立派な卒業式にしようとして一生懸命になる姿も感動的でした。会場全体の気持ちが一つになった素晴らしい卒業式でした。

地域学校運営理事会の皆様を来賓にお迎えし、卒業生の旅立ちの時をともにお祝いしていただきました。ありがとうございました。

卒業生、そして保護者の皆様、本当におめでとうございます。4月からの中学校でのますますのご活躍願っています。



卒業する子どもたちに校長より3つのことを話しました。

① 「あたりまえ」のことの中にあるありがたさに感謝できる人になってほしい

「あたりまえ」のご飯を食べ、「あたりまえ」のように水を飲むことができます。友だちと会えることも「あたりまえ」、服を買えることも「あたりまえ」、あまりに「あたりまえ」過ぎて、その有難さに気づかずして過ごしてしまいそうです。「あたりまえ」の中にある有難さに気づき、感謝の気持ちを持てる人になってほしいです。

② 「命」を大切にがんばってほしい

ひいおじいさん、おばあさんは8人、その前の代は16人というように数えていくと10代前のご先祖様は1024人いることとなります。多くのご先祖様から受け継がれてきたこの命。ものすごく大勢いるご先祖様のうち一人でも生まれていなかったら、今の自分は存在しません。今ここに自分が存在することは、奇跡です。この受け継がれた命はこれから広がっていく命となります。命を大切にがんばってほしいです。

③ 令和5年度の西田小学校卒業生としての誇りをもってがんばってほしい

世界中どこを探そうとも、これから何年経とうとも、令和5年度の西田小学校の卒業生は世界中に君たち7名しかいません。西田小学校の卒業生としての誇りを胸にがんばってほしいです。

1年を振り返って～思い出に残る行事



6年生を送る会

- ・5年生だけで初めて全校をリードしたり、司会をしたりして6年生に喜んでもらえました。
- ・出し物の劇で掃除のセリフ「ちゃんと掃除をしようや」とか登校班の「ある日の登校の時間」など覚えるのをがんばりました。

親子運動会



修学旅行



小体連陸上大会



ロードレース大会



サンレイク宿泊研修



カルタ大会



全校の子どもたちに思い出に残る行事についてアンケートを取りました。多かったものをご紹介します。他にも、なわとび集会、社会科見学などたくさんありました。たくさんのごことに挑戦し、得意なことが増えたり、出来るようになったという喜びを感じたりしながら成長したと思います。

この1年間、保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動へのご理解と多大なるご支援をいただいたこと心よりお礼申し上げます。令和5年度は3月22日(金)が修了式となります。来年度はいよいよ西田小学校としての最後の年となります。保護者の皆様、地域の皆様と力を合わせ、子どもたちを育てていきたいと思っております。令和6年度も変わりませず、お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

春休みにおかれて～修了式で子どもたちに校長より次の二つの話をします。

- ① 春休みは今年度のまとめであると同時に新しい年度のスタートです。この1年間をふり返ると同時に、一つ学年が上がった時にどんなことをがんばるのか、その**目標をしっかりと立ててほしい**と思います。
- ② 「いのちを守る」・・・いつも言っていますが、春休みは年度が替わるということで、多くの方が慌ただしく動きます。こういう時こそ、横断歩道の渡り方、歩き方など交通事故にあわないように、十分すぎるほど慎重に行動してほしいです。